



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進的医療の推進
良き医療人の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151 (代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

唾液の古くて新しいお話し

臨床病理診断科 診療科長・教授 美島 健二

唾液は1日に1～1.5リットル分泌され、成分の殆どが水ですが、その中にタンパク質や電解質などいろいろな物質が含まれています。唾液の機能には、消化作用、抗菌作用、粘膜保護作用および食塊形成作用などがあり口腔環境のみならず全身状態の維持に大切な役割を果たしています。

特に唾液が持つ抗菌作用は、う蝕、歯周病や粘膜炎などの感染症予防に大切な役割を担っています。このような唾液の機能については、以前より良く知られてきましたが、最近注目される機能として、唾液に新型コロナウイルス感染を抑制する作用があることが挙げられます。

すなわち、大阪公立大学のグループは、唾液に新型コロナウイルスと細胞の接着を抑制する作用があることを発見しました。さらに、このグループは解析を進め、ウイルスの接着を阻害する唾液中の物質を4種類発見したそうです。このように、唾液には新型コロナウイルス感染を予防する力があるということがわかってきました。

ただし、注意が必要なのは、感染検査の検体として唾液が使われていることから明らかのように、感染者の唾液には多数のウイルス粒子が存在している事実



です。実際、感染者の唾液腺にウイルス感染が認められていることも報告され、私達の研究でもその可能性が示唆されました (<https://www.showa-u.ac.jp/news/nid00004666.html>)。

したがって、感染者の唾液の取扱いにはこれまで通り十分注意する必要があることに変わりありません。

前述させていただきました通り、唾液が新型コロナウイルス感染を予防することが明らかとなりましたので、唾液の質を高めるためにもしっかりと口腔清掃に務め、口腔を清潔な状態に保つことが感染予防につながります。



- P1 巻頭言 唾液の古くて新しいお話し
- P2 診療科紹介 臨床病理診断科
- P3 歯科トピック 高齢者歯科
- P4 公開講座開催報告
- 編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：臨床病理診断科

臨床病理診断科 診療科長補佐・助教 鯨岡 聡子

臨床病理診断科は、歯学部口腔病理学部門教授の美島健二を診療科長とし、口腔病理学部門と兼任で以下の業務を行っています。

病理組織診断：

病変の全部もしくは一部を採取したものを、顕微鏡にて詳細に観察することでどのような病変なのか（良／悪性、手術の必要性、等）を決定する確定診断を行います。手術による摘出が必要だと判断された場合は、摘出された病変を更に細かく分割し、悪性度の再評価や進行の程度等の診断を行います。

細胞診：

病変の表面からこすり取った細胞や、深部に位置する病変から注射針で採取した細胞を、顕微鏡で形態を観察することで病変の良悪の判定を行います。細胞診は診断に必要な検体量が少ないため検体採取が容易ですが、診断の確実性は病理組織診断に比べると劣ります。

術中迅速診断：

手術中に組織の一部を採取し、病変の診断や手術範囲の決定あるいは病変の取り残しがないか等の判断を顕微鏡像から判断することで、外科手術の精度向上に貢献しています。

開業医の先生方からの病理組織検査の受託：

開業医の先生方からの診断依頼をお引き受けしております。採取された検体を固定液に入れ、当科までご送付いただきますと、2週間ほどで診断結果を返送いたします。検査には受託研究契約が必要となります。詳しくは当科のホームページをご覧ください。か、お電話・メールにてお問い合わせ下さいませ。

私どもは基本的に患者さんと直接お目にかかる機会はありません。しかし、各診療科で採取された病変を通じて患者さんと向き合っています。病理診断の結果は治療方針の選択や予後（医学的な経過の見通し）の予測など、患者さんの Quality of life (QOL) に直結しています。

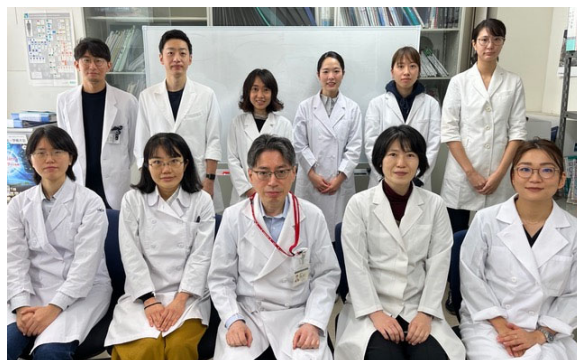
当院が質の高い医療を提供できるよう各診療科と緊密な連携をとり、細心の注意を払い診断を行っています。また、医系総合大学である昭和大学の特徴を活かし、医学部臨床病理診断学講座と連携して口腔疾患の診断等に従事することで、精度の高い診断法の確立や予後の予測に取り組んでおります。

臨床病理診断科ホームページ

<https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/departments/list/pathology/>



臨床医と顕微鏡をみながらのディスカッション



口腔病理学部門スタッフ

高齢者歯科では主にご高齢の方（65歳以上）を担当しております。高齢期のお口の問題で最も多いのは食事の問題です。誰でも、年をとっても「おいしく食べる」ことは、毎日の生活における大事な楽しみです。

ところが年齢を重ねると、色々なお口の問題とお体の問題が複雑にからみあうことで、おいしく食べることが難しくなる場合があります。高齢者歯科では、ご高齢の方に多いお口の問題（入れ歯、口腔ケア、噛む・飲み込みの機能など）に総合的に対応することで、少しでも「おいしく食べる」ことのお手伝いをさせていただきます。

特に、入れ歯（義歯）の問題はご高齢の方に非常に多い問題です。揺れてる歯を無理に残すよりは、ピッタリあった良い入れ歯の方が、食事が摂りやすくなることも多いです。たとえ歯が一本もない総入れ歯になっても色々な対応方法がありますので、ぜひ一度ご相談ください（写真1）。

また、入れ歯を使いこなすためには、お口の機能をきちんと管理することが大事です。お口の機能は年齢や病気によって低下することがわかっており、これをオーラルフレイル

（お口の機能の複合的な低下）と言います。オーラルフレイルは、全身の健康に関連することが分かっています。高齢者歯科では、おいしく食べる楽しみを守るために、内科クリニックとも連携し、お口と全身の両面から患者さんの健康管理をお手伝いいたします。

2022年4月からは50歳以上の方が口腔機能低下症の検査の対象になっていますので、ぜひ当科で行っている“口腔機能低下症”の検査を受けることをお勧めいたします（写真2）。

さらに、歯科病院の患者さんで近隣にお住まいの方が、要介護状態等の状況になり、歯科病院への通院が困難になった場合には、地域の歯科医院と連携しながら、訪問診療によって食事やお口の問題に対応できる場合があります。ご自宅や施設などに高齢者歯科のスタッフが伺いして、入れ歯、口腔ケア、食事の指導などができますので、担当医にご相談ください。

当科では、日本老年歯科医学会、日本補綴歯科学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会の専門医・認定医を中心に他の診療科とも連携して対応にあたります。



写真1 上下の総入れ歯



写真2 口腔機能低下症の検査

2022年度 公開講座 開催のご報告

病院広報委員会

2022年10月15日（土）13:00から当院6階臨床講堂において公開講座が開催されました。コロナウイルス感染拡大によって昨年度までWeb配信で開催されており、3年ぶりに対面講義としての開催となりました。

当日、受講者の皆様には体温測定や健康状態の申告などをお願いし、30分ごとに換気にご協力いただきながらの開催となりましたが、講義ごとの質疑応答時間には参加された受講者から活発な質問が寄せられました。

講演内容は、マイヤース三恵准教授（医科歯科連携診療歯科）からは【体の病気と歯科治療】、岩佐文則准教授（補綴歯科）からは【専門医が診る入れ歯外来】、永里咲恵衛生士（歯科衛生室）からは【お口の健康を育む方法】という演題でそれぞれ約30分の講演をいただきました。公開講座終了後、受講者には受講証授与と歯科用品が贈呈され、好評のうちに幕を閉じました。

受講者アンケートでは「口腔内の状態が病気の発見につながり、昭和大学の病院で治療ができ、回復したという話に感動しました。また、がんになってから口腔ケアを始めるのではなく、定期的に歯科で診ていただくことが大切だと思いました」、「いろいろな入れ歯があることを知ることができ、昭和大学歯科病院で作っていただける先進義歯外来ができ、ありがたいです」、「虫歯、歯周病の絵が大きくわかりやすかったです。お口の体操をしたり、食べる姿勢で誤嚥性肺炎の予防ができることがわかり、よかったです。歯磨きの方法、歯磨き粉や入れ歯の管理方法の情報がありがたかったです」などの感想をいただきました。



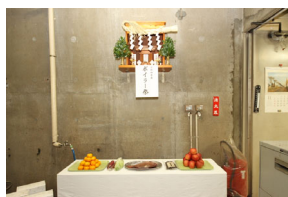
昭和大学公開講座の様子

ボイラー祭 開催報告

事務課管理係

2022年11月4日（金）17:00より、1号棟の地下2階にてボイラー祭が執り行われました。

馬場病院長と職員が参加し、機器の安全運転と職員の健康を祈願いたしました。



ボイラー祭の様子

編集後記

レンコンの日本一の産地はご存知でしょうか。複数の穴を持つ特徴的な形態から「先を見通せる」と縁起が良いとされる根菜ですね。収穫量日本一は茨城県で、日本で二番目に大きな湖（霞ヶ浦）周辺が産地として知られています。

レンコンのサクサクとした心地良い食感をお楽しみいただけるよう、お口の健康を大切になさっていただければと存じます。（K.J）

